

再研削や スラッジ捕集装置で 現場の不満を解消



株式会社力ナ工技研

オリジナル・プログラムを搭載 自社開発の自動ドリル再研削機

機械設計や部品加工の会社として竹内順一社長が創業したカナエ技研。公差内におさめる仕上がりで、その高い技術力が評価されていたが、竹内社長の夢はそれだけでは終わらなかった。「カナエ技研」の社名は、尊敬する本田宗一郎氏が創業した本田技研工業にあやかった。小さな工場から大きくなつていったように、夢を叶えたい、との思いが込められている。創業から15年後の平成15年、ついに念願の自社製品「自動ドリル再研削機」の開発に成功する。「他にはないものを作りたいと思った」と竹内社長が言うように、同社の製品には使う人の立場に立った工夫が多い。

当時、市場に出ていたドリル研削機は、刃先を新しく作る機械に再研削の機能がついたものが主流で、

価格も高かった。使っている刃物を研削しただけの現場では、新しく刃先を作る機械を導入せねばならず、大きなコストを負うことになる。しかも、研削を行うには熟練の技が必要だった。そこで同社は再研削に特化。自社で開発したプログラムを搭載し、初心者がタッチパネルに触れるだけで操作ができるようにした。それにより、現場の設備投資や人件費等のコストを大幅に抑えることが可能になった。

「人材を育てる時間や経費の余裕がない企業でも、これを使えば新人でも操作ができ、満足いく仕上がりになります。さらに障害者用の研削機も開発しました」。同社では男女や障害の有無等関係なく働ける環境を目指しているのだが、その思いが具現化したといえる。

「汗と涙のあつたあつた現場の声を形にする」

「創業当初から、よそが困っているものを引き受けてきた」というカナエ技研は、取引先の現場の不満にも敏感だ。もっと楽にできないかという思いが、「電磁式自動スラッジ捕集装置」の開発につながった。ドリル研削機から出るスラッジを静電気を集めるため、非磁性性のスラッジも回収できるのが大きな特長だ。研削機に設置すれば、現場の省スペースにもつながる。

「現場でお困りごとをお持ちの企業様に、いいところを見つけたと言ってもらえる会社を目指しています」と竹内社長は、経営の姿勢を語る。

まだまだこれから、アイデアと知恵を出していきたいと夢は大きい。すでに東南アジアに進出、CEU（EU加盟国の基準を満たす規格）も取得し、ヨーロッパ展開の準備も進めている。

数年前は10名程度だった従業員も今は40名を数え、今後は100名企業を目指すという。マイクロソフト社とも取引しているソフト開発力をフルに活かし、プログラミングから製品の完成まで高い技術力を武器に、夢をまた一歩前進させていく。

株式会社力ナ工技研

住所 / 〒573-0128
大阪府枚方市津田山手2-19-10
設立 / 昭和63年7月
資本金 / 2,000万円
従業員 / 40名（平成21年1月現在）
TEL / 072-897-3010
FAX / 072-897-3012

Company Profile



竹内順一さん
代表取締役

主な事業内容

自動ドリル再研削機・手動型ドリル研削機等の開発・製造、CAD・CAMシステムでのプログラムの簡素化、カム加工、ヘリカル2.5軸加工、プログラムサービスでの提供等

<http://www.kanae-giken.jp/>